

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.58
2017. October

発行者 琉球病院事務部長
有岡 雅之

基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

院内感染対策合同カンファレンスについて

調剤主任 矢口 武廣

2017年9月22日に独立行政法人国立病院機構沖繩病院の2階会議室において、沖繩病院、琉球病院、海邦病院の3病院による院内感染対策合同カンファレンスが開催されました。

院内感染対策合同カンファレンスは、昨今ニュースでも話題となる薬剤耐性菌やインフルエンザウイルス等による感染症が、院内で蔓延することを阻止するために必要な情報や対策方法を病院間で共有する目的で開催されています。院内感染対策合同カンファレンスは年に4回行われることとなっており、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師の4職種を中心に構成される感染対策チーム(ICT)のメンバーが参加します。今回の感染対策合同カンファレンスは今年度2回目の開催であり、各施設の抗菌薬使用状況や検出されている細菌・ウイルスについて報告が行われたほか、血流感染(点滴注射や静脈内注射に伴い起こる感染)を防ぐためにはどのような対策を取る必要があるのかについてカンファレンスが行われました。

当院では今年の1月からICTメンバーによる院内ラウンドを行っており、院内感染対策合同カンファレンスには3月から参加しております。ICTメンバーによる院内ラウンドでは院内感染対策合同カンファレンスで得た情報を活かしながら、患者様にとってより清潔な療養環境を提供し、院内感染を起こさないことを目標に色々なことの改善に取り組んでいます。その取り組みの一つとして、院内感染対策でもっとも重要になる手指消毒が行いやすくなるように速乾性の手指消毒剤を各スタッフが持ち歩ける環境を作ることができました。当院においては始まったばかりの取り組みであり、課題はたくさんありますが、ひとつひとつ解決しながらよりよい環境を作るためにICTスタッフ一同頑張りたいと思います。よろしくお願い致します。



（この文章は上記の文章と重複しています。このブロックは、元のドキュメントのレイアウトを忠実に再現するためにここに置かれています。）

トピックス

行事・出来ごと

- 病棟等建替 進捗状況 本体工事：新病棟（第1期工事）完成 平成27年7月
- 整備の動き 雨水配水管盛替工事 完成予定 平成29年2月
- 重心病棟建替等工事 完成予定 平成30年10月

教育・研修

- 琉球病院ミニコンサート 日時：平成29年10月12日(木) 13:30 ~ 15:00
- 場所：あしびな体育館

● 地域医療連携室だより

当院の地域医療連携室は1階に設置されており、ソーシャルワーカーが常駐して患者様ご家族、関係機関からの受診・入院相談等の各種相談の窓口となっております。また、各病棟に専従の精神保健福祉士も配置されており入院から退院まで支援しています。

入院前後から情報収集や関係機関と連携を図る事で、退院後も地域で安心して生活できるよう努めています。お困り事等がございましたらお気軽にお声かけ下さい。



空床状況

| | | | |
|-------------|-----------|-------------|-----------------|
| 精神科病棟 2床 | 認知症 4床 | アルコール 2床 | 児童思春期ユニット 2床 |
|-------------|-----------|-------------|-----------------|

9月29日現在 ※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

院長

福治康秀(ふくじ やすひで)
1964年生まれ、那覇市出身、
首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、
琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年
琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、
2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。



診療科

- 一般精神科
- こども心療科
- 物忘れ外来
- アルコール依存症等外来

病床数 406床

- 精神科病棟 181床
- 認知症 50床
- アルコール 54床
- 児童思春期 ユニット 4床
- 重症心身 障がい 80床
- 医療観察法 37床



● アクセス

路線バス / 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖繩バス「77番名護豊線」浜田バス停下車徒歩3分
自動車 / 那覇市から40分
沖繩自動車道金武インターから名護向け5分

NHO PRESS~国立病院機構通信~について

国立病院機構通信 (NHO PRESS) 医療のプロも有る

琉球病院は、国立病院機構 (NHO: National Hospital Organization) という143の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。

国立病院機構(NHO)という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する「NHO PRESS~国立病院機構通信~」を発行しています。外来ロビーに設置していますので、ぜひご覧になってください。

なお、ホームページに最新号と過去のものを掲載していますので、そちらもぜひご覧になってください。「NHO PRESS」で検索してください。

NHO PRESS 検索 QRコード

お問い合わせ時間

8:30~17:15 (土・日・祝日以外)
TEL: 098-968-2133 (代)
内線: 231・234
地域医療連携室(直通)
TEL: 098-968-3550
FAX: 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療



クロザピリンの治療状況

平成22年から治療抵抗性統合失調症の患者様に対してクロザピリン (CLZ) 治療を開始し、全症例は216例になりました。平成29年8月のCLZ導入は2例で、1例は他の病院からご紹介の患者様でした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者様も多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も少なくなり、隔離は解除できています。週に3回の専門外来も行っていますので、患者様のご紹介をお願いいたします。

m-ECT (修正型電気けいれん療法) の治療状況

当院では、m-ECT (修正型電気けいれん療法) による治療を行っております。平成29年8月の治療実績はありませんでした。

こども心療科

こども心療科の受診待機者はとても多く、待機期間の短縮に向けて業務の効率化に努めていますが、患者様やそのご家族には初診までに非常に長い期間お待たせしている状況にあります。

こどもの心理・発達面に関する診療を担う医療機関不足の解消に向けて、こどもの心の診療ネットワーク事業における人材育成の一環として、県内の医療従事者を対象に、当院での診療の見学(陪席)を受け入れています。

事業に関するお問い合わせは、「こども心療科ソーシャルワーカー」へお願いします。

認知症医療

東皿病棟では、9月11日(月)に作業療法士、病棟スタッフの皆さんの協力のもと敬老会を開催しました。

今年トッシー祝いの患者様の雛壇を設け、病棟スタッフのかぎやで風を皮切りに、射的・輪投げ・巨大風船を用いてバレーボール大会など、多くの企画が行われました。また、患者様全員に、マルメロのケーキが提供され、美味しいスイーツを堪能いたしました。多くの笑顔と喜びの声が聞かれ、病棟スタッフ一同喜ばしく思えました。これからも患者様の楽しめる病棟レクを係と共に計画していきたいと思っております。ご協力宜しくお願いします。

重症心身障がい医療

9月20日~22日、重症心身障害病棟(療養介護)では個別支援計画中間評価の為、成年後見人及び家族に来院頂き個別面談を行いました。病院での利用者支援を報告すると共に、成年後見人やご家族の要望をお聞きし、病院から各種確認をさせて頂きました。見者一貫体制の維持が継続され、利用者の年齢や状態に応じた適切な日中活動が提供される事が求められています。今後ともご家族、地域、病院が連携し、利用者支援の更なる充実がはかれるよう取り組んで参ります。よろしくお願ひ致します。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では8月現在、外来通院の患者様72名、入院中の患者様27名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。また、当院の外来での調査では、レグテクト内服を継続している患者様の方が、治療継続率が高いという結果も出ております。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療 (ACT)

平成29年8月は、773件の訪問看護を行いました。訪問看護での日常生活の支援目的は、再発を予防しQOLを高め本人の生き方やそのライフスタイルを尊重した上での支援を行っています。利用者様が現在困っていることを把握し、抱えている問題によって地域での生活が困難にならないように、早期に対応することで再発防止や病状悪化の早期発見に繋がります。訪問看護の頻度は、利用者様の症状やライフスタイルによって違いがあります。又、訪問看護では個々の利用者様の受け持ちスタッフが決まっている為相談がしやすい体制となっています。

臨床研究部活動状況

著書の紹介 『病院で働く心理職 ―現場から伝えたいこと―』

元琉球病院主任心理療法士 野村れいか(編著) NHO 全国心理療法士協議会(監修) 日本評論社

全国のNHOで働く心理療法士で本を出版しました! 出版に先立ち2014年にNHOの多領域にわたる心理療法士が1つの組織を作り、互いの業務を知り、研修体制を整えることで自らの質の向上を図り、ひいては全人的な医療サービスに貢献し、医療の利用者への援助を資することを目的に国立病院機構全国心理療法士協議会が設立されました。NHOの病院で心理療法士が何をしているのか、多職種チーム医療でどのように役立つことができるのか、また多職種からみた心理療法士がどのようなものか、事例を交えわかりやすい内容となっております。これから、病院で働きたい心理士、今働いている心理士、心理士と関わるスタッフにおススメの1冊です。

目次

- 第1章 病院で働く心理職・総論
- 第2章 病院で働く心理職・各論
- 第3章 他職種からみた心理士
- 第4章 Q&A

